研究の成果

宿根カスミソウ新品種の育成経過と特性

―― 大輪で早咲きの品種誕生 ――

1．育種目標

現在、栽培されている大輪系で八重の品種は、生育初期においてロゼット化しやすく、出荷時期が非常に遅くなり、一部の作型での栽培に限られている。ここでは、従来の「パーフェクタ」の形質を維持し、ロゼット化しにくい早咲きの宿根カスミソウ品種を育成したのでその経過と特性について紹介する。

なお、本品種は、後日、命名のうえ種苗登録する予定である。

2．育成経過

平成元年にシュッコンカスミソウの大輪系品種「パーフェクタ」について茎頂組織から

平成元年　「パーフェクタ」
　　↓　カルス培養による変異の誘発
　　↓　再分化個体の作出
平成２年　　試験管内でロゼット性検定
　　９個体を選抜
平成３年　↓　ほ場選抜
　　「P-03」「P-05」「P-07」
平成４年　↓　特性調査
平成５年　↓　生産力検定
　　↓　現地適応性検定
平成６年　「P-03」を選抜

図１新品種「P-03」の育成経過

カルスを形成し、再分化することによって変異の拡大を図った。平成２年には得られた再分化個体を試験管内でロゼット性について検定し、ロゼット化しにくいと思われる９個体を選抜した。平成３～４年にかけて暖地園芸センターのガラス温室で栽培し、大輪早咲きの有望系統「P-03」、「P-05」および「P-07」を選抜した。

平成４～６年には暖地園芸センターで特性検定及び生産力検定、西牟婁郡白浜町のビニールハウスで現地適応性検定を行った（図１）。

3．新品種の開花特性

本系統は「パーフェクタ」に比べて初期生育がよく、ロゼット化しにくい系統で、９月上旬に定植すると12月下旬から１月にかけて開花が見られる。従来の「ブリストル・フェアリー」に比べると花茎が硬く剛直で、厳寒期から春にかけても軟弱にならない。花は白、直径12.0mm程度の大輪で従来の「パーフェクタ」と同程度である。また、栽培では３本に仕立てたが、同一株における開花ぞろいに問題があった。しかし、２℃、40日間の低温処理によって開花揃いがよくなった（表１）。

4．栽培上の留意点

低温処理をしていないピンチ苗を無加温で栽培すると同一株内の生育がそろいにくいため注意する。

（育種部　宮本　芳城）

表１　パーフェクタ育成系統の開花特性

系統名	低温保存の有無	切花始 月．日	切花長 cm	切花節数 節	開花節数 節	切花重 g	切花本数(本/8株) L	M	S
P-03	有	12．25	75.3	12.4	12.4	74.2	28	18	0
	無	1．31	75.0	13.0	13.0	120.0	10	2	0
パーフェクター	有	3．01	77.0	15.0	15.0	139.0	2	0	0
	無	―	―	―	―	―	―	―	―

注）低温保存：２℃、500lx、で40日間保存、９月20日定植、電照（16時間日長）
　　加温：最低10℃に設定、切り花本数は３月31日まで調査

ロゼット：生育初期に伸長が止まり、茎の節間が詰まって葉が重なり合い、地際部から放射状に葉が並んだ状態をいい、バラの花弁のように見えることから‘ROSETTE’と呼ぶ。